

【別冊】

九州大学箱崎キャンパス跡地等の
基盤整備事業に係る計画段階環境配慮書

資料編

平成28年11月

独立行政法人都市再生機構
福岡市

< 目 次 >

九州大学箱崎キャンパスにおける土壌汚染調査の結果について（平成 28 年 6 月 27 日、九州大学）	1
旧工学部 2 号館土壌汚染場所における地下水調査結果について（平成 28 年 10 月 21 日、九州大学）	6
九州大学箱崎キャンパス内で石積み遺構を発見 一元寇防塁か？（平成 28 年 9 月 16 日、九州大学）	7

九州大学箱崎キャンパスにおける土壌汚染調査の結果について

本学は、箱崎キャンパスの移転に伴い、同キャンパス旧工学部 2 号館跡地において土壌汚染調査を実施したところ、下記の表に示すとおり、調査箇所の一部で土壌汚染対策法に基づく指定基準を超える水銀・砒素・鉛・六価クロムが検出されましたので、平成 28 年 6 月 27 日に土壌汚染対策法第 14 条（※ 1）に基づく区域の指定を行うよう福岡市へ申請いたしました。

このことにより、旧工学部 2 号館跡地については、今後、福岡市から土壌汚染対策法に基づく区域の指定を受けることとなります。

今回の調査結果を受けて、大学構内で現在使用中の井戸水及び境界付近に新たに設置したモニタリング井戸の地下水の調査を実施しましたが、有害物質は検出されておりません。また、当該汚染箇所は工事用仮囲いで区画し、シートで覆うなどの処置をしており、土壌が飛散する可能性が極めて低く、周辺的生活環境への影響はないものと考えております。

今後は、関係行政機関の指導のもと、責任を持って万全な体制で土壌浄化への対応を進めてまいります。なお、後日、周辺住民の方々への説明会を開催いたします。

また、他区画においても順次調査を行っているところです。結果が判明次第、今回同様、公表してまいります。

	検出物質	基準値超過区画／ 調査区画	最大値	基準値
土壌溶出量(mg/l) (※ 2)	水銀	5 0 / 1 9 0	0.045	0.0005 以下
	砒素	1 3 / 1 9 0	0.11	0.01 以下
	六価クロム	1 / 1 9 0	0.07	0.05 以下
土壌含有量(mg/kg) (※ 3)	鉛	1 / 1 9 0	1300	150 以下

注) 190 : 旧工学部 2 号館跡地の全調査区画数 (1 区画=10m×10m)
砒素 13 区画のうち 6 区画については、水銀との複合汚染区画

<調査等の実施日>

1. 土壌汚染調査 (状況調査・詳細調査)
平成 27 年 7 月 17 日～平成 28 年 5 月 27 日
2. 構内井戸水及びモニタリング井戸の地下水の調査
平成 28 年 6 月 1 日～平成 28 年 6 月 26 日

<土壌汚染対策法に基づき指定を受ける区域>

福岡市東区箱崎 6 丁目 3 3 3 0 番 3 の一部 5, 900 m²

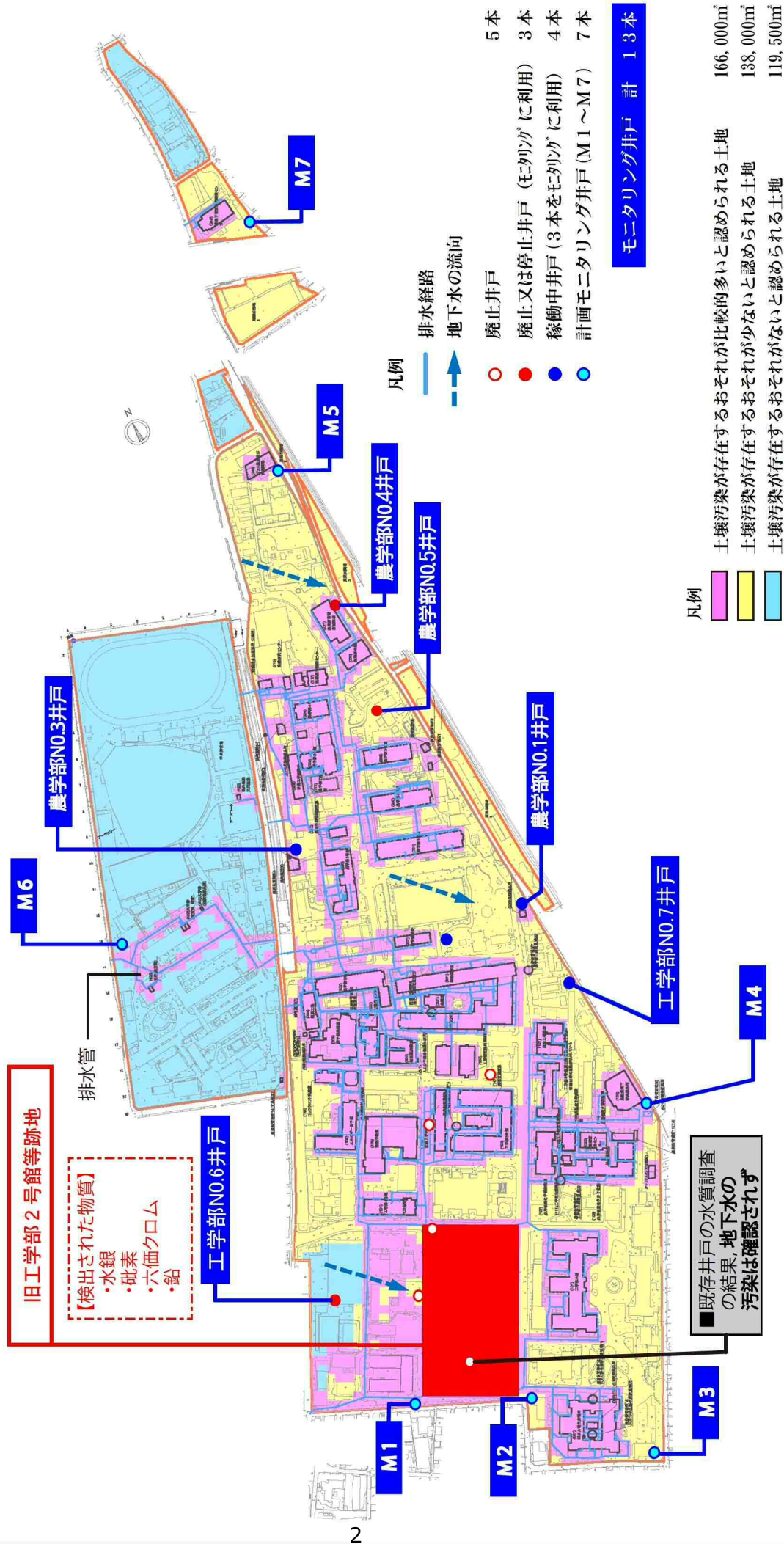
※水銀及びその化合物等の検出地点については、別紙資料のとおりです。

(※ 1) 土壌汚染対策法第 14 条 : 自主的な土壌汚染調査に基づき区域の指定を行うよう申請ができる。

(※ 2) 土壌溶出量 : 土壌に水を加えた場合に溶出する有害物質の量

(※ 3) 土壌含有量 : 土壌に含まれる有害物質の量

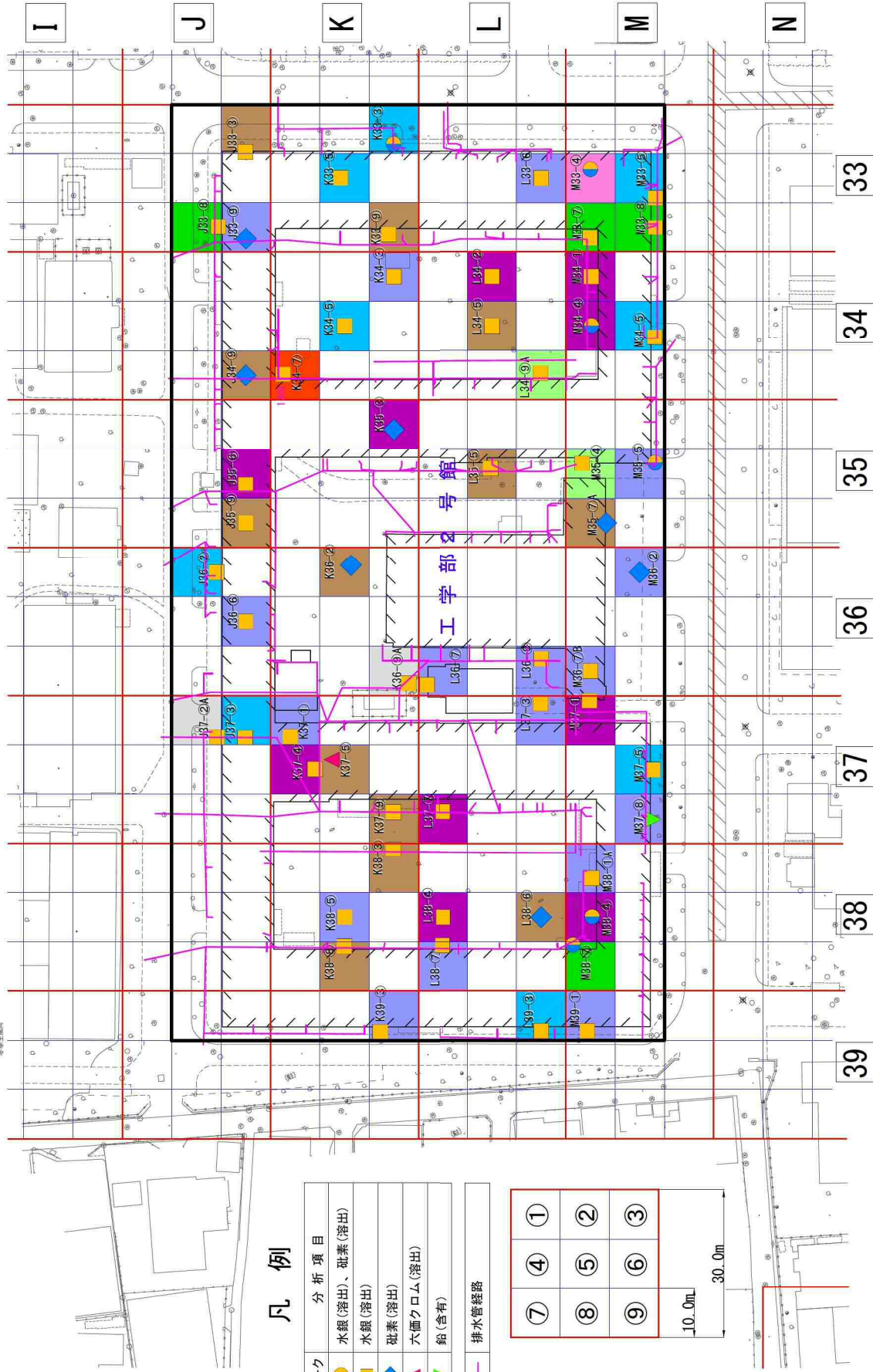
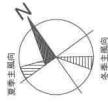
箱崎キャンパス 土壌汚染地歴調査平面図 (モニタリング井戸配置計画図)



凡例の土壌汚染のおそれの区分は、環境省の「土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン（改訂第2版）」による。

注) 平成28年3月18日の地歴調査結果に基づき最新の土壌汚染地歴調査平面図です。

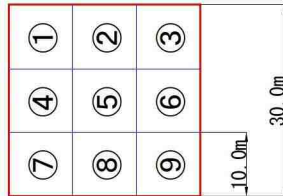
汚染深さ一覧図 S=1:800



- 汚染最深深度
- 汚染無し
 - 0.5mまで
 - 1.0mまで
 - 1.5mまで
 - 2.0mまで
 - 2.5mまで
 - 3.0mまで
 - 3.5mまで
 - 4.0mまで
 - 4.5mまで

凡例

マーク	分析項目
	水銀(溶出)、砒素(溶出)
	水銀(溶出)
	砒素(溶出)
	六価クロム(溶出)
	鉛(含有)
	排水管経路



○箱崎キャンパス 既設井戸及びモニタリング井戸の水質検査一覧表

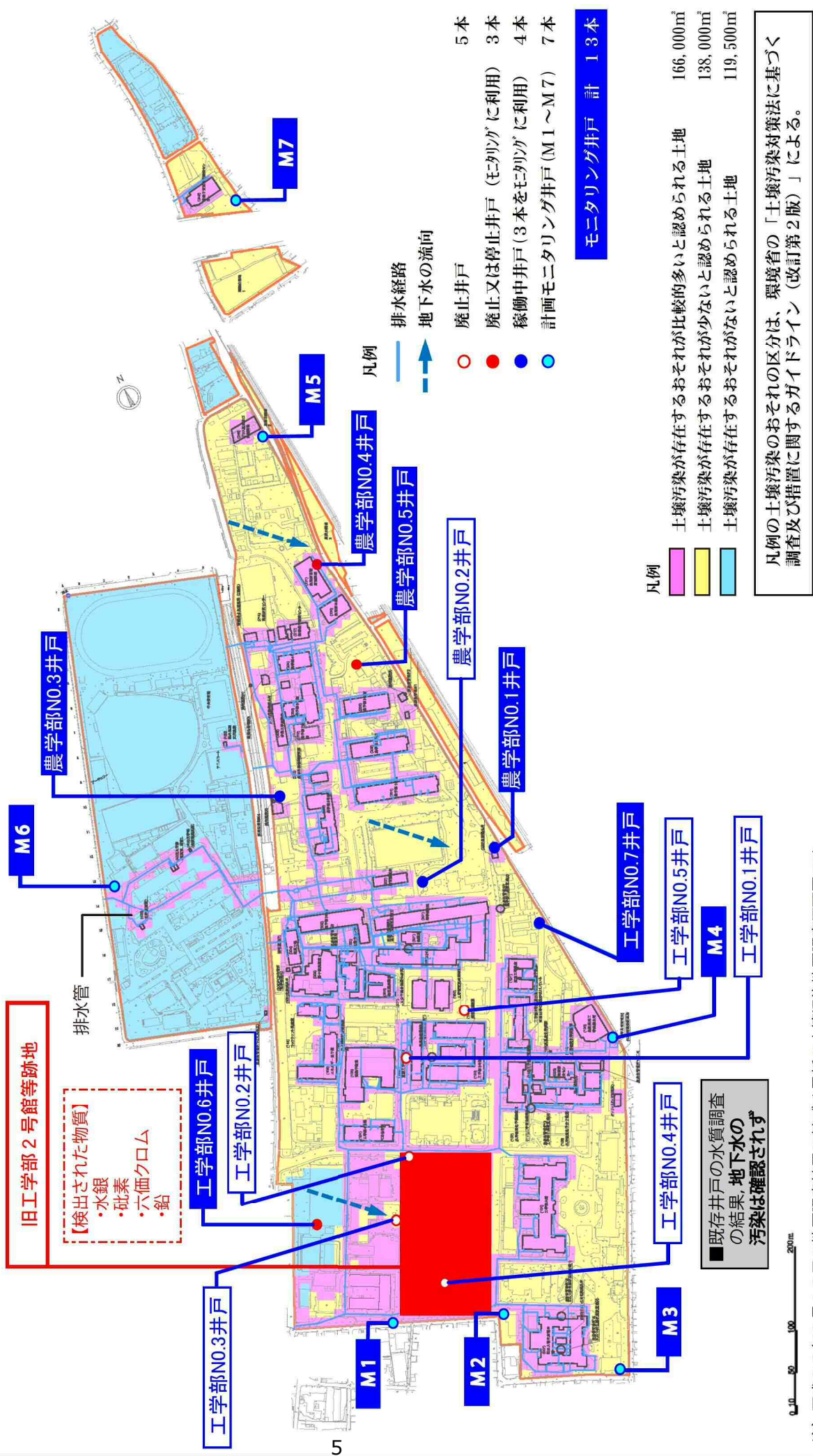
種別	年度	井戸の状況	H19 定期検査	H20 定期検査	H21 定期検査	H22 定期検査	H23 定期検査	H24 定期検査	H25 定期検査	H26 定期検査	H27 定期検査	H28 緊急調査	備考	
既設井戸	工学部 No.1	廃止	○	○	○	○	○	12月廃止	-	-	-	-	水枯れ	
	工学部 No.2	廃止	○	○	○	○	○	○	○	○	6月廃止	-	建物取壊しのため	
	工学部 No.3	廃止	○	○	○	○	○	○	○	○	6月廃止	-	建物取壊しのため	
	工学部 No.4	廃止	使用停止	-	-	-	10月廃止	-	-	-	-	○	建物閉鎖のため 跡地緊急調査	
	工学部 No.5	廃止	廃止	-	-	-	-	-	-	-	-	-	水枯れ	
	工学部 No.6	廃止	○	○	○	○	○	○	○	○	11月廃止	○	敷地境界に列管が 代用井戸 建物取壊し	
	工学部 No.7	稼働中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	敷地境界に列管が 代用井戸	
	農学部 No.1	稼働中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	敷地境界に列管が 代用井戸	
	農学部 No.2	稼働中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	敷地境界に列管が 代用井戸	
	農学部 No.3	稼働中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	モニタリング 井戸としては使用せず	
	農学部 No.4	停止中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	敷地境界に列管が 代用井戸	
	農学部 No.5	停止中	○	○	○	○	○	○	○	使用停止	-	○	敷地境界に列管が 代用井戸	
	M1									使用停止	-	○	敷地境界に列管が 代用井戸	
	M2												○	
	M3												○	
M4												○		
M5												○		
M6												○		
M7												○		
モニタリング井戸														

凡例 水道法水質基準項目と重複する土壌汚染対策法の特定有害物質 : ○=不検出 ×=検出

赤字は、モニタリング井戸及びモニタリング代用井戸を示す。(土壌汚染対策法の有害物質25種類を調査)

平成28年6月に列管が 井戸設置

箱崎キャンパス 土壌汚染地歴調査平面図 (モニタリング井戸配置計画図)



注) 平成28年3月18日の地歴調査結果に基づき最新の土壌汚染地歴調査平面図です。

PRESS RELEASE (2016/10/21)

九州大学記者クラブ会員 各位

旧工学部2号館土壤汚染場所における地下水調査結果について

本学の箱崎キャンパス旧工学部2号館跡地の一部において、平成28年8月15日福岡市より土壤汚染対策法に基づく要措置区域に指定され、同時に汚染の除去等の措置として「地下水の水質の測定」指示がなされました。

これを受け、同区域内に設置した4カ所のモニタリング井戸の水質検査を実施したところ、内1カ所から、砒素が基準値(0.01mg/l以下)を超えて検出(0.013mg/l)されましたのでお知らせします。

本件については、本日、福岡市へ報告しており、改めて汚染の除去等の措置について福岡市から指示があると聞いております。

本学における今後の対応につきましては、福岡市の指導のもと措置を講ずることとしており、具体的な対応策が決定次第、改めて公表いたします。

以上

PRESS RELEASE (2016/09/16)

九州大学箱崎キャンパス内で石積み遺構を発見 — 元寇防塁か？ —

現在、本学埋蔵文化財調査室では、箱崎キャンパス内において、九州大学統合移転事業にともなう埋蔵文化財調査を進めています。

中央図書館の南脇地点で発掘調査をおこなったところ、加工痕のある大型角礫を直線状に並べた石積み遺構が発見されました。博多湾の旧海岸線に並行して南北 17m 以上残っており、裏込石をかませて角礫を 3 段以上積み上げた部分もあります。発見された石積み遺構は、場所や構築方法などから、文永の役（1274 年）後、蒙古襲来に備えて薩摩国が造営分担したとされる元寇防塁の一部である可能性が高いと考えられます。

福岡市東部では、ここまで保存状態が良好な元寇防塁が発掘調査・記録された事例はほかにありません。本遺構は福岡市東区箱崎の貴重な文化遺産であり、日本の歴史を代表する遺跡である可能性が非常に高いものです。

【記者発表】

日 時 平成 28 年 9 月 20 日（火）
15 : 00 ~ 16 : 00

場 所 中央図書館 1 階会議室
説明後、発掘調査現場へ移動
（下図参照）

説明者 九州大学埋蔵文化財調査室
室長 宮本一夫

※台風の接近状況によっては延期する場合があります。

不明な点は問い合わせ先へご確認ください。



遺構検出状況（北東から）



記者発表会場及び発掘調査現場の位置